



『東北圏だより』

新年のご挨拶

東北圏広域地方計画協議会 会長（一般社団法人 東北経済連合会 会長）高橋 宏明

新たな年を迎え、一言ご挨拶申し上げます。

未曾有の大震災から今年で5年目を迎えます。復興は、社会資本整備を中心に着実に進展してきておりますが、依然、約24万人もの人々が避難生活を余儀なくされているなど、未だ途半ばの状況です。今年こそ、東北の全ての人々が復興を実感し、新たな飛躍の年となることを強く祈念致します。



こうした中で、今年は、東北圏広域地方計画協議会にとっても、新たな活動のステージを迎える年になります。

現行の「東北圏広域地方計画」は、国土形成の基本方針や目標、戦略的に実施すべき具体的な施策等を明確にすることを目的に、平成21年8月に策定されました。その後、平成23年3月の東日本大震災で明らかとなった諸課題に対応するため、計画の見直し作業を進めて参りました。しかしながら、国土強靱化など国土計画を巡る状況の変化を踏まえ、作業を一時中断しておりました。

かかる状況の下で、昨年7月に「国土のグランドデザイン2050」が策定され、観光立国の実現、地域の経済活動や災害時のリダンダンシー確保にも資する日本海・太平洋2面活用型の国土づくり（道路、港湾、空港等）、新たな産業・価値創造の拠点形成等の基本戦略が示されました。こうした状況を背景に、東北圏においても広域地方計画の見直しを再開することと致しました。

今年は、東北圏広域地方計画協議会において、東北圏の広域地方計画の見直し作業を精力的に進めてまいります。見直しに当たっては、国土のグランドデザイン2050の基本戦略や国土形成計画（全国）の改定状況、また政府の「まち・ひと・しごと創生本部」の取組状況等を踏まえつつ、有識者等の皆様の意見もお聞きしながら、各構成機関の皆様と検討を進めてまいりたいと考えております。

関係の皆様方のご支援、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

以上

『地域公共交通シンポジウム in 仙台』

～コンパクト・プラス・ネットワークの実現に向けて～ を開催しました

東北運輸局

東北運輸局では、平成 26 年 11 月 25 日（火）にメルパルク仙台（仙台市宮城野区）において、「地域公共交通シンポジウム in 仙台～コンパクト・プラス・ネットワークの実現に向けて～」を東北地方整備局と共同で開催致しました。

当日は地方自治体、交通事業者をはじめ 220 名を超える多くの皆様にご参加いただきました。

まず、弘前大学大学院地域社会研究科長の北原啓司氏より、「東北発コンパクトシティと地域公共交通」と題し基調講演をいただき、「コンパクトシティとは、『まちの形がコンパクトな都市』という意味ではなく、その地域に暮らす人々のライフスタイルの変化を誘導し、コンパクトなライフスタイルを実践すること」「これからの地域公共交通は、地域住民等の参画による多様な主体の連携から生まれる『C o 交通』という考え方が必要である」といった示唆に富んだお話をいただきました。

続いて、先進的取組みを進めている富山市より「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」、山形県鶴岡市より「鶴岡市の地域公共交通確保維持活性化の取組み」というテーマで事例を報告いただきました。

さらに、パネルディスカッションでは、基調講演をいただいた北原教授のコーディネートのもと、宮城大学の徳永幸之氏、福島大学の吉田樹氏、いわて地域づくり支援センターの若菜千穂氏、富山市の京田憲明氏をパネリストとして「まちづくりと連携した持続的な地域公共交通を実現するために」をテーマに議論を交わしました。

シンポジウムの参加者からは、「それぞれの都市に見合った政策が必要だと感じた」、「ただ単に『まちの縮小』ではいけないということを深く考えさせられた」、「交通事業者としてどのように取り組むべきか、非常に考えさせられた」等の声が寄せられました。

東日本大震災からの復興、全国を上回る高い高齢化率・人口減少率等の課題を抱えた東北にとって「持続可能なまち・交通の形成」は、待ったなしです。東北運輸局では、東北地方整備局と連携し、今後も地域の皆様と連携・協働を図りながら、地域づくりと公共交通について考えて参ります。当シンポジウムが、地域の創意ある取組みのご参考となることを祈念しています。

なお、シンポジウムの資料等は、東北運輸局ホームページからご覧ください。

<http://www.tb.mlit.go.jp/tohoku/ks/new%20page/ks-sub10-02.html>



第 1 回東北圏広域地方計画改定に関する有識者懇談会を開催しました

東北圏広域地方計画推進室

東北圏広域地方計画協議会では、東北圏広域地方計画の改定を行うべく鋭意作業を進めており、去る 12 月 15 日（月）、東北地方整備局大会議室において「第 1 回東北圏広域地方計画改定に関する有識者懇談会」を開催いたしました。

この懇談会は、計画改定にあたり、有識者の意見を伺うために設置したものであり、16 名の有識者に委員に就任していただいております。

始めに座長の互選と副座長の指名が行われ、座長に選任された柴田委員の進行により議事が進められました。



▲ 第 1 回 有識者懇談会の様子

【→次頁へ続く】

議事では、最初に事務局から東北圏広域地方計画及び関連計画の概要並びにこれまでの検討経緯等について説明を行い、その後、計画改定に向けての視点について、各委員による意見交換が行われました。

有識者懇談会は今回を含め4回程度の開催を予定しており、懇談会で出された意見を整理し、その後行われる市町村への計画提案募集により集められた意見とあわせて計画改定素案に反映させ、パブリックコメント等の手続きを経て、計画改定の国土交通大臣決定を行うべく作業を進めていきます。

○東北圏広域地方計画の改定に関する有識者懇談会 委員（敬称略、五十音順）

今村 文彦	東北大学災害科学国際研究所 所長
鎌田 真理子	いわき明星大学人文学部 教授
(座長)柴田 洋雄	美しい山形・最上川フォーラム 会長
澁谷 尚子	企業組合でる・そーれ 代表理事
末永 洋一	一般財団法人青森地域社会研究所 特別顧問
(副座長)鈴木 浩	福島大学 名誉教授
関山 和秀	スパイバー株式会社 代表執行役
田村 圭子	新潟大学危機管理室災害・復興科学研究所 教授
中出 文平	長岡技術科学大学 副学長
浜岡 秀勝	秋田大学システムデザイン工学科 教授
針生 信夫	農業生産法人株式会社舞台ファーム 代表取締役
宮原 育子	宮城大学事業構想学部 教授
山崎 裕子	山崎ダイカスト株式会社 取締役
谷村 久興	谷村電気精機株式会社 代表取締役会長
若菜 千穂	特定非営利活動法人いわて地域づくり支援センター 常務理事
渡邊 明	福島大学共生システム理工学類 特任教授

編集後記

新年あけましておめでとうございます。年末年始は曜日の配列もあって十分な休暇が取れ、心身ともにリフレッシュされたことと思います。昨年は、東北圏広域地方計画の改定に向けた取組がスタートし、今後も、第2回の有識者懇談会や幹事会・検討会議・協議会を予定しております。本年も、各構成機関の皆様のご協力を得ながら東北圏広域地方計画の改定作業を進めて参りますので、ご協力の程よろしく申し上げます。

『東北圏だより』に掲載する広域地方計画に関連する情報をお寄せ下さい。また、『東北圏だより』へのご質問、ご意見、ご要望等についても結構です。お気軽に次のアドレスまでメールでお寄せ下さい。メールアドレス：kou-suishin2@thr.mlit.go.jp